

横断的な気候変動の影響や脆弱性・リスクの把握と適応策の検討

(テーマに即したタイトル)

例:熱中症の発症をもたらす暑熱環境を改善するための適応策に関するワークショップ

注:本資料は、中部地方環境事務所が実施したワークショップ資料を一部改変して作成したものです

ワークショップの目的

本日のワークショップは

1. 健康や生活に対する気候変動影響を共有
2. 異なる部局間で、熱中症の原因となる暑熱環境を改善するための暑熱適応策について意見交換
3. 必要な暑熱適応策について整理

を目的に実施します。

ワークショップの流れ

時間（例）	内容
9:30	開場
9:30-10:00	受付
10:00-10:05	開会挨拶・趣旨説明
10:05-10:30	健康や生活に対する気候変動影響を共有するセミナー 異なる部局間で、熱中症の原因となる暑熱環境を改善するための暑熱適応策について意見交換し、施策素案を作成するワークショップ
10:30-12:30	<ol style="list-style-type: none">1. グループワーク(GW)<ul style="list-style-type: none">・ 統計データを用いて地域における熱中症発症数の動向を把握2. ディスカッション<ul style="list-style-type: none">・ GWを踏まえ各グループ内で意見交換し①②③をとりまとめる ①地域の熱中症の暴露の対象(人・場所)について整理 ②地域が抱える脆弱性:被害への感受性(影響の受けやすさ)、 適応力の不備や欠如について整理し、①との関連についても整理 ③熱中症の発症を低減する既存施策や必要な施策について整理、 また、②との関連や、原因・課題、その先の対策について整理
12:30	閉会

ワークショップ開始前の準備

1. 時間の設定

- 各項目(議題)にかける時間を事前に設定。

2. グループの編成

- 1班4人程度でグループ分け。

3. ファシリテーターの設置

- 各グループごとに議論を活性化し進行をサポートするファシリテーターを設置。

4. 記録係の設定

- 意見交換の内容を記録する役割を決定。

(対面開催:ホワイトボードや付箋にメモを取り、重要なポイントを整理。)

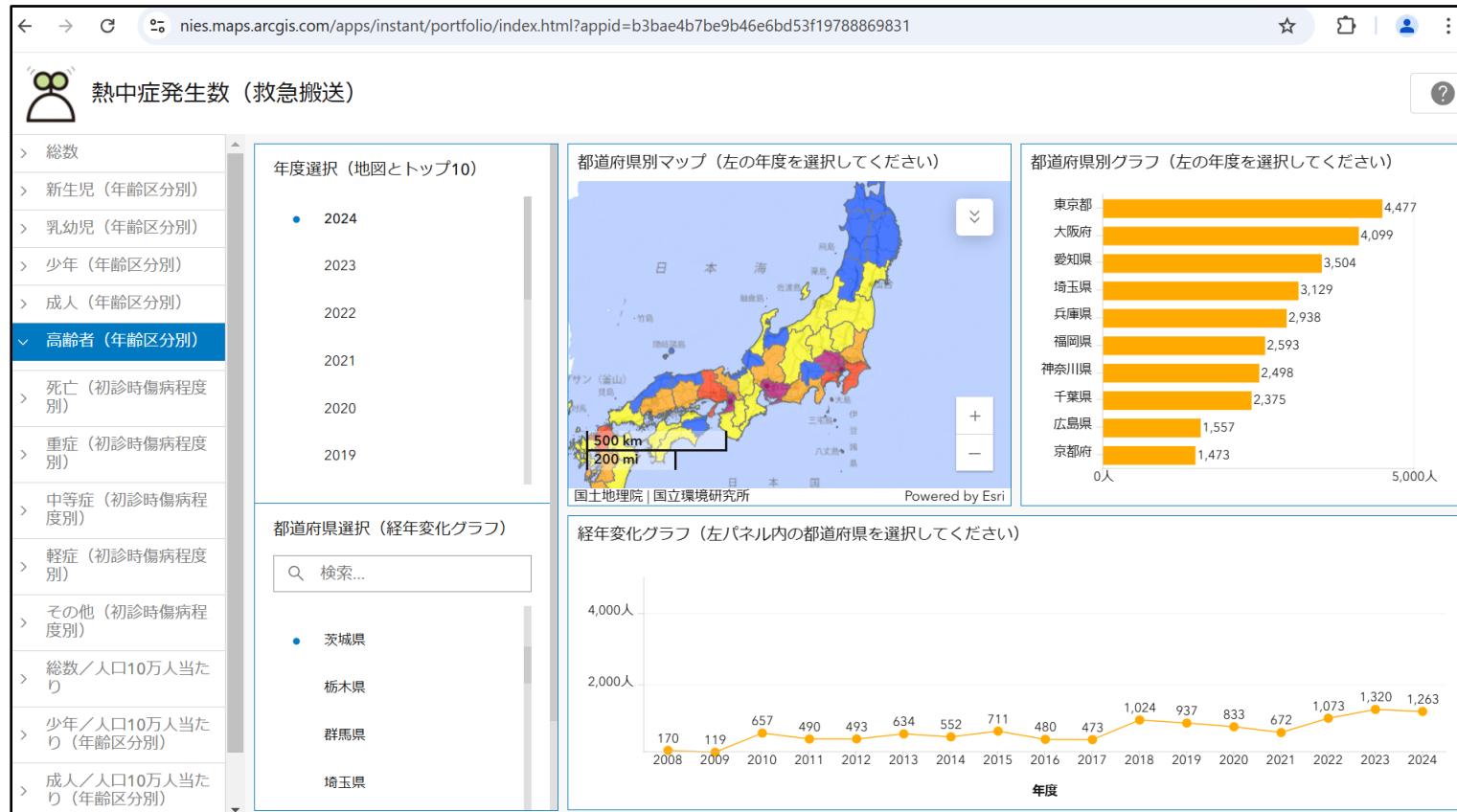
(オンライン開催:アプリケーションのメモ機能やWordで重要ポイントを整理。)

5. ワークショップのルール説明

- 全員が発言する機会を持つ、相手の意見を尊重する、などのルールを予め説明。

グループワーク

- 統計データを用いて地域における熱中症発症数の動向を把握。
 - 総務省の熱中症救急搬送者数データ。
 - 国立環境研究所の環境GIS(下図) など。



ディスカッション

- グループワークの結果を踏まえ、各グループ内で意見交換をしながら下記の①、②、③についてとりまとめる。
- ① 地域の熱中症の暴露の対象(人・場所)について整理。
 - ② 地域が抱える脆弱性:被害への感受性(影響の受けやすさ)、適応力の不備や欠如について整理し、①との関連についても整理。
 - ③ 热中症の発症を低減する既存施策や必要な施策について整理し、また、②との関連や、原因・課題、その先の対策について整理。

事後アンケートやフォローアップ

1. 研修の実施効果の検証

- 研修実施後にアンケートをとることで、研修を実施したことにより適応策関連の悩みが解消されたかどうかなど検証。

2. フォローアップ

- 研修後であっても研修で使用した資料にアクセスできるようにすることで、参加者の研修内容への理解を増幅。
(例) 地域気候変動適応計画策定マニュアルのダウンロードURLを掲載:
https://www.env.go.jp/earth/earth/tekiou/page_00005.html
- 可能であれば、研修後も資料内容に関する質問を受け付け、回答。